第 2014-52 号

恵みと真理のニュース

2014 年 12 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私に尊い信仰と祝福なる使命をくださり万事が益となるように助けて家庭の福音化を成し遂げてくださったこと神様に感謝をします。

私は中高等学校をミッションスクールを通ったのでキリスト教信仰に対して少知りましたが神様の信仰がなく成長しました。青年になっては山が好きで休みの日には趣味で銅山を楽しみました。周りから伝道されても“結婚してから呼んでください。その時には教会に行きます。”と言い断りました。
結婚する時になって今の旦那を紹介されましたが、教会に通うと聞かれて結婚を決心しました。たとえ、私は教会に通ってないですが教会に通う男なら真面目だと思ったからです。結婚して都市近くの田舎で新婚生活をしました。旦那の職場がサービス業で遅く出勤し夜遅く退勤して休みの日にも出勤しなければならなかったので忙しいという言い訳で教会を行かなかったです。私の夫婦を伝道する方もいませんでした。
　時間が経って長男が4歳になって次男が生まれたばかりの時でした。旦那が職場の同慮と仕事をしに市内に行って帰って来る時に交通事項に合いました。旦那が事故を起こしたことではなくその道を通っただけでした。どころがおかしく旦那が事故を起こしたことで調査を受けました。あまりにも悔しかったです。そのころまずイエス様を信じた叔妹が教会に行って神様を信じ祈ることを進みました。中高等学生の以降初めて礼拝に参席しました。久しぶりに説教を聴いて大きく恵まれました。祈りの時間に悔い改めと“神様わたしたちを助けてください。導いてください。”私の口から切に祈りをしました。礼拝が終わって帰って来るときには心が平安になりました。そのように私達が始めて教会を通ようまで時間かかりましたが、交通事故の件が旦那の主張のとおり事実に即してよく処理しました。
以後から弱かった私の信仰が強くなるまで様々な事を経験しました。一つの例を引いて私が信仰生活に怠けると普通は健康でよく跳んで遊んでいた私の次男が急に両腕が動かなくなる状態になりましたが、病院に行って検査を受けてみたが病名も知らなかったです。区域長が教会をつれていて祈ったら嘘のように治りました。その後にもこんな事が何次もありました。このような経験を通して神様に対する信仰が成長するようになりました。熱心に神様を畏れ愛し頼る生活をすると神様は物質の祝福も与えてくださいました。聖霊様は旦那の心も変えて感動をくださり完全な十一献金を捧げるようになりました。
どころが、私が暑理執事の職分を受けたときに神様に感謝しなくてに担えられないとまだ信仰が弱いと言い訳をして教会を休みました。そうしながら子供達にも成長していくにつれて大きい都市で引越しもっと大きい教会で生活をしたい思いをして引越しをするように祈りました。その状況で旦那が外の職場を移すと言い良く勤務していた職場を止めました。旦那が願っていた所で履歴書を出しましたが最後の面接で落ちました。その後から私の高慢な心を悔い改めました。そして、神様にすべてのことを委ね感謝する心で求め祈ると旦那がスワンにある会社に合格しました。私達が通いたい恵みと真理教会があるスワンに引越ししたことが嬉しかったです。初めはほかの教会で多くの方達が尋ねて来て伝道しましたが、いざ恵みと真理教会から伝道しに尋ねた人がなくて残念でした。何日後、二人の区域長が私達に尋ねて来て本当に嬉しくて感謝しました。礼拝がある日に多くの聖徒が私達の教会に集まって喜んで賛美し祈りして御言葉を聞く姿に恵まれました。以前にはなかった熱心に主日礼拝、平日礼拝、区域礼拝を参席しました。また、区域長達の愛と助けで区域長達の祈り会、田園聖殿で盛会に参席する時には区域長のかばんを持っている多くの区域長の姿が美しくて私も区域長の職分を願いました。“どうしたら、私も区域長の職分を受けるのか？、私なぬるい信仰では駄目だろう？神様を信じるためには熱心にしよう。”と思い月曜祝福礼拝と金曜祈り会にも熱心に行きました。祈り会で多くの聖徒と集まって御言葉で慰め新しい力を得て教会と家族ため、神癒のため聖霊に満たされるため切に祈る姿は感動そのままでした。私もこのような祈り会を待ち望むようになり祈り会に行って神様を仰ぐようになりました。
教会で児童区域長の職分をくださる時に喜びと感謝で受けました。神様が職分をくださる時には担える力と助けてくださる事を信じて従順しました。私の家で初めて子供達を集めて児童区域礼拝を捧げる日、首区域長をはじめ多くの区域長達が来て私を祈ってくださり励んでくださいました。この日、神様の恵みと愛に感激して涙の流して礼拝をし栄光を捧げました。また、立てみたかった聖歌隊にも入って神様に賛美を捧げました。教会に行って礼拝を捧げ奉仕することが喜びになりすべてが感激で感謝でした。恵みの海に落ちってまるで体は雲の上にあるようで待つ時間が長くなった感じでした。そして、子供が成長しているので仕事でもしたくて神様に祈ったら二つことが私に与えられました。熱心に仕事をしながらも奉仕と礼拝には妨害しない事をするようになりました。神様の恵みでした。
　さて、都市が開発され再びパジュで移転する状況になりました。初めて話を聞いて“私はここがとても良いです。すばらしい区域長達と良い聖徒達と楽しく教会生活をして心が充満になる頃なのに子供達も引越ししたくないのにと少し不平をしました。区域長達は私をそこで送る神様の御心と摂理があると私達を慰めました。旦那が先に行って子供と私は
神様の導くを願いながら祈って結局、家族がイルサンで引越しました。そして引越しした神様の摂理と御心があることを悟る時間がそんなに長くかからなかったです。
　神様は旦那を職場で地位を高くしてくださいました。そればかりでなく私達が住みたかった願っていたアーパトの階数まで祈りを答え引越しするようにしてくださいました。そして奉仕の人数が少ないイルサン聖殿で以前よりもっと熱心に多くの所で区域長と聖徒達と共に交わって愛を分かち合いながら訓練を受けて続けて信仰を成長するようにしてくださいました。女性奉仕連合会は奉仕部員として仕えるなかで願っていた成人区域長の職分を受けました。私をここに導いてくださった神様の御心をまだ若い時に慰めと褒められことと賞をもらえることだと信じ礼拝して奉仕することに全力を尽くしています。
　私は2年前夏の断食祈り会を忘れません。長い時間父と母の救いのため祈っりました。祈りの時間に父が病院に入院した話を聞きました。気が急きました。次男が高校3年で進学のために祈ることより是非父がイエス様を受け入れて天国に行けるように母も救われるように“家族の救いのため切に祈りました。その祈りが答えられ父は入院して一週間後にイエス様を受け入れて家族と良い時間を過ごして天国に行きました。そして母も主を受け入れ神様を礼拝をし信仰生活を良くしています。それだけでなく教会を離れていた旦那も主と教会のところに戻りました。
本日神様を礼拝して教会と聖徒を仕え福音を伝える清い主の働き人になるように導いた神様の愛に感謝を捧げます。家族を救ってくださり万時が益となるように助けてくださる神様の恵みに感謝を捧げます。力尽くす限り主に呼ばれる日まで忠誠します。ハレルヤ！

［信仰コラム］　神霊な者と神霊な生活

生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。しかし、霊の人は、すべてのものを判断するが、自分自身はだれからも判断されることはない。
(コリント人への第一の手紙，2 :14~15)

私たちが使う言葉の中にはどんな分野や組織体の構成員たちの間で主に使われる用語があります．あがない，贖良，　攝理，再臨，携去，復活，補血などの言葉は教会でたくさん使います．’神霊だ.’ 用語もそうです．すべての人は必ず ″神霊な者″にならなければならないしまた ″神霊な生活″をしなければなりません．人に一番重要な急先務は神霊な人になるのです．すべての人を ″肉体に属した人″と ″神霊な人″ 二つの部類で区分することができます．″肉体に属した人″と言うのはイエスキリストを信じない人々をひっくるめて称える名称です．本質上の震怒の子として永遠な滅亡に処するようになるので ″肉体に属した人″という言葉は呪いに属する言葉です．″神霊な人″と言うのはイエスキリストを信じる人を称える呼称です．聖書に啓示されたそのままのイエスキリストを信じる人は自分の存在の土台と深みで，魂で起きる変化を経験するようになります．罪人が義人になって，悪魔のしもべが神様の子になります．イエス様の補血で罪の洗い受けて聖霊で生まれかわるようになります．
次に重要なことは神霊な生活に力をつくすのです．

第一，礼拝するのを楽しむのが神霊な生活です．罪悪が極甚なソドムとゴモラにあったロッは牧畜するのに有利なヨダンの野原を選んでソドム町に入って行って暮しました．ロッの家族たちはその所の人々の影響を受けて礼拝をなおざりにするようになりました．結局神様の審判を受けてソドムとゴモラ城が滅亡される時ロッは財物を皆失って妻は塩の柱になってしまう患難を経験しました．一方アブラハムはヘブロンの山地を選びました．その所は流れる川がいなかったし牧草が豊かではなくて時によって適切に露が降ればこそ水があって草が生えました．だからいつも神様を頼らなければならなかったです．世俗的な生に濡れるようになったロッは財物をすべて失ってしまって惨めになったが神様を仕えて礼拝することを最高の目標と課題にする神霊な生活をしたアブラハムは栄えるようになりました．神様の言葉を聞いて祈って讃尿する礼拝を楽しがる生活が神霊な生活です．

第二，自分の能力と手腕より神様の助けることと福与えるを頼って慕うのが神霊な生活です．ヤゴブは兄さんより肉身の能力は劣等でした．しかし神様の福を慕う心，神様の助け下に住もうとする心が切実でした．ヤゴブは神霊な福を慕って聖なる様の福を追い求めたから福を受けました．神様の福を何より珍しく思って慕うのが神霊な生活態度です．

第三，神様の再臨を切に望めながら生きて行くのが神霊な生活です．神様の再臨に関する徴兆たちが予言されているから聖徒たちはその再臨が切迫したということが分かります．神様の再臨を常に思って切に望む聖徒はいつも覚めて生活します．

第四，神様の褒め言葉と賞級を望みながら生きて行くのが神霊な生活です．主の前に立つ日に誉められて賞を受けるのを期待しながら生きて行く聖徒は主の仕事に力をつくしながら暮すようになります．自分が持ったことを虚しい仕事に浪費しないで福音を伝えて聖徒を仕える事に使うようになります．

五番目，天国を慕いながら生きて行くのが神霊な生活です．アブラハムはガナアンへ来てすごい金持ちになってもいつも天幕に暮しました．これは彼の故郷が天で旅人と行人で外国に住んでいるということを現わすためのことでした．私たちがこの世の中を生きる間旅人と行人で住むことを忘れてはいけないです．天の都城，私たちの主イエス様が予備なさった父の家を常に慕いながら暮さなければなりません．これが神霊な生活です．

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

最上最高の信仰

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は生きて行きながら信じなければならないことと信じてはいけないことを分別する能力を発展させて行きます．どんな存在や事実を信じようか信じてはいけないはずなのかを判断して決めることは非常に重要です．人は彼が持っている信仰の対象と種類と性格によって彼の生と運命が決まります．だから何を信じようか？どんな信仰を持とうか？することの重大さは他の何に比較されることができないです．真のクリスチャンは最上最高の信仰を持つように出来た人です．この信仰はイエス様によるのです．
本文に “信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである”（ ヘブル人への手紙，12 ：２）言いました．“信仰の完成者また完全になさる人イエスキリスト”という言葉は “イエス様は信仰の創始者で完成者だ．” “イエス様は私たちが必ず持たなければならない信仰を持つことができるようにしてくださるだけでなくその信仰の成就を見るようにしてくださる方だ．” と説明することができます．イエス様による信仰を持つためにはイエス様を眺めて注目しなければなりません．イエス様は私たちに最上最高の信仰をくださろうと恥じを気に止めなくて十字架を耐えたし神様の御座の右に座りました．聖書はイエス様に対する記録です．イエスキリストがおっしゃるのを “あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。”（ ヨハネによる福音書 5:39）しました．だから心を開いて耳を傾けて聖書に記録された言葉を聞く人は最上最高の信仰を持つようになってその信仰の完成を経験するようになります．聖書にはこのような事実をいきいきと証明する事件が記録されています．

先に、ペテロとヨハネがいざりを治癒した事件をよく見ます．

ペテロとヨハネが聖殿に上がっていました．ペテロとヨハネは美門の前で物乞いするいざりを見ました．彼は生まれながらいざりになった人で日々にその所で物乞いしました．ペテロとヨハネがいざりを注目しながら “私たちを見ろ．”しました．彼は期待感で頭をあげて眺めました．ペテロが言うのを “私に銀と金がない．しかし私にいることであなたに与えたら，ナザレイエスキリストの名前で起きて歩きなさい．”そしていざりの上がった手を握って起こしました．すると彼の足と足首が直ちに力を得てむっくり起きて歩いて走りました．生まれてから 40 余年を歩くことができなかった人が完全に治って歩いて走って神様をほめたたえながらペテロとヨハネとともに聖殿の中に入って行きました．その光景を見た人々が甚だしく驚いて奇妙に思いました．この事件は大きい反響を起こしました．治られたことを得った人がペテロとヨハネをつかんで付いて行ったら群衆たちがソロモン殿に集まって来ました．
ペテロが彼らを向けて説教し始めました．“ペテロはこれを見て、人々にむかって言った、「イスラエルの人たちよ、なぜこの事を不思議に思うのか。また、わたしたちが自分の力や信心で、あの人を歩かせたかのように、なぜわたしたちを見つめているのか。アブラハム、イサク、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光を賜わったのであるが、あなたがたは、このイエスを引き渡し、ピラトがゆるすことに決めていたのに、それを彼の面前で拒んだ。あなたがたは、この聖なる正しいかたを拒んで、人殺しの男をゆるすように要求し、いのちの君を殺してしまった。しかし、神はこのイエスを死人の中から、よみがえらせた。わたしたちは、その事の証人である。”（行 3:12～15）．そして引き継いで言いました．“そして、イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人を、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおり完全にいやしたのである。”（行 3:16）．ペテロはいざりが奇跡的な直すことを受けるようになった要点を言いました．
第一は，“その名前を信じるので”と言いました．二番目は，“その名前がこの人をいやしたのである”としました．三番目は，“イエスキリストによって私は信仰がいやしたと” 言いました．

次に、パウロとバルナバがルスドラに行って福音を伝える時にあった事件をよく見ます．

ルスドラは当時に小アジアのルがオニア地域にあるローマの植民地でした．こちら住民たちはほとんどがローマ帝国の他の都市たちのように汎神論的な神観を持っていました．パウロ使徒が福音を伝える現場に二つの足がいざりの人が座っていたが，彼は母胎からいざりになって全然歩いた事がなかったです．この人がパウロの説教を傾聴しました．パウロが彼を注目して彼に救いを受ける信仰があることを見ました．パウロ使徒はそのいざりに向けて大きい音で“あなたの足で正しに立ちなさい” と言いました．その瞬間この人が直ちに走って起きてかけました．彼がどのようにしてそのように驚くべきな信仰を持つようになったのか質問が生じます．聖書にはその人がパウロの説教を聞いていたと言いました．これがその質問に対する答です．神様の言葉を悟って信仰を持つようになることに多くの場合があります．第一，神様の言葉を聞いて心に留めて聞かなければなりません．第二，一回、二回聞き入って悟ることができずに信仰を得ることができなくてもずっと聞けば悟られて信仰が生じます．第三，先日聞いた言葉がある日，どの瞬間に心に浮び上がりながら悟ることが出来て信仰が生ずる場合があります．第四，神様から選ばれた者で言葉を聞いて悟りながら信仰を持つようになります．
パウロ使徒がビシディアのアンデーオックで福音を伝える時多くの人々が神様の言葉を聞こうと集まって来ました．これを見たユダヤ人たちが癪忌心がいっぱいになってパウロとバルナバを誹謗しました．パウロとバルナバは彼らを向けて胆大に言いました．“パウロとバルナバとは大胆に語った、「神の言は、まず、あなたがたに語り伝えられなければならなかった。しかし、あなたがたはそれを退け、自分自身を永遠の命にふさわしからぬ者にしてしまったから、さあ、わたしたちはこれから方向をかえて、異邦人たちの方に行くのだ。”（行 13:46）．そして引き継いで聖書に記録されるのを “異邦人たちはこれを聞いてよろこび、主の御言をほめたたえてやまなかった。そして、永遠の命にあずかるように定められていた者は、みな信じた。”（行 13:48）しました．永生を得るようにする信仰は神様が永生をくださることに決心した人が持つようになるという意味です．だから福音を聞いて信じる人はその信仰までも自分の功労であることができないことを分からなければなりません．イエスキリストがおっしゃるのを “わたしをつかわされた父が引きよせて下さらなければ、だれもわたしに来ることはできない。わたしは、その人々を終りの日によみがえらせるであろう。”（ ヨハネによる福音書 6:44）したし“そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。”（ ヨハネによる福音書 6:65）しました．だから言葉を聞いて悟るようになることは神様の恵みです．言葉を聞いて信仰を持つようになることも神様の恵みです．エペソ人への手紙,2 章 8 節に “あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。” と言いました．ルスドラのいざりは神様の選ぶことを受けた人です．彼はパウロ使徒が伝える神様の言葉を専心で耳を傾けて注意深く入りました．そして彼は “救われる力がある信仰”を持つようになりました．
信じるのを願うが信じられない場合があります．このような人に解答を与える良い示しがあります．一りの男が悪鬼に取り付かれて言えない息子をイエス様に連れて来ました．その子供が甚だしくひきつけを起こして地に倒れて泡を流しました．イエスキリストがその子供の父に“いつからこのようになったのか?” と問ったら幼い時からと答えました．“霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました。しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」。イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。”（ マルコによる福音書 9：２２～２４）という懇求にはこの事件の暗示する教訓があります．子供の父はイエスキリストがおっしゃった言葉をそのまま信じたかったです．ところで信じられなかったです．子供の父は自分のこんなジレマを “私の信仰ないことを手伝ってください．” という懇求として解決を受けました．

結論を結びます．人が持つことができる最上最高の信仰はイエスキリストによる信仰です．この信仰は聖書に記録された神様の言葉，イエスキリストの言葉を聞く時生じます．もし信じられなかったら信仰ないことを手伝ってくれと神様に切に求めてください．皆さんはイエスキリストによる信仰，聖書に記録された神様の言葉を聞くので生ずる信仰，神様に切に求めて得る信仰このような “最上最高の信仰”を日増しにもっと豊かに持ってください．そしてその信仰が現実になる体験をするように願いします．